

良食味・中生エダマメ品種「滝系C8」

高橋 拓也・作山 一夫

(岩手県農業研究センター)

New Green Soybean Variety with Good-taste and Medium-maturing, "Takihei-C8"

Takuya TAKAHASHI and Kazuo SAKUYAMA

(Iwate Agricultural Research Center)

1 はじめに

エダマメは岩手県産野菜の中で重点品目の一つであり、水田転作の強化もあって普及が図られている。また、市場流通上は莢の大きさや充実性が求められている一方で、消費嗜好の多様化により良食味品種への要望も高まっている。岩手県農業研究センターで育成した「滝系C8」は甘み・香りなど特に優れ、完全英率や多粒英率が高く、中生品種としては多収等の優良品性が認められるので、その特性を報告する。

2 育成経過

「滝系C8」は、1986年に旧岩手県立農業試験場（現岩手県農業研究センター）において、中生、良食味、多収性を目標として、中生の主力品種であった「ふくら」を母本、佐藤政行種苗より市販されている「中生茶豆」を花粉親として交配し、その後代より育成されたものである。1992年に雑種第5代で「86C08」の系統名で5系統を選抜、1993年には、その中で「86C08-95-1」を3粒莢が多く、多収であるとの理由から有望とし、さらに1994年より雑種第7代で「滝系C8」の系統名を付けて、同年から生産力検定を実施した。その後、現地試験や特性検定等を継続調査した。その結果、甘み、香りとも強く良食味で、また、完全英率、多粒英率など高く、多収性が認められることなどから、育種目標に合致すると判断し育成を完了した。2000年における世代は雑種第9代である。

3 特性概要

(1) 形態的特性 (表1)

胚軸色は緑、花色は白、小葉の形は円葉で、小葉数は3

表1 生育期における形態的特性

品種・系統名	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本)	最下着莢節 位高 (m)	着莢密度 (莢/cm)
滝系 C8	77	15.8	7.6	4.0	1.40
ふくら(標)	43	13.3	6.5	2.7	1.90
中生茶豆(比)	95	20.5	10.9	2.5	1.88

注. 1997~99年の平均値。ただし、「中生茶豆」は1999年のみの値。

枚、成熟時の莢色は褐色である。

主茎長は「ふくら」より極く長く、主茎節数、分枝数とも多い。最下着莢節位高は低で、着莢密度は中である。

成熟時の粒色は黒、子葉色は黄、臍の色は黒で、粒形は扁球、粒の大きさは大である。

(2) 生態的特性 (表2)

伸育型は有限、開花期、成熟型はともに極早で夏大豆型である。5月中～下旬播種の場合、岩手県中南部におけるエダマメとしての収穫期は8月中～下旬である。

表2 開花期・エダマメ収穫期・成熟期

品種・系統名	播種 (月.日)	開花期 (月.日)	収穫期 (月.日)	成熟期 (月.日)
滝系 C8	5.18	7.13	8.21	9.20
ふくら(標)	5.18	7.6	8.14	9.13
中生茶豆(比)	5.21	7.23	9.7	10.14

注. 1997~99年の平均値。ただし、成熟期及び「中生茶豆」は1999年のみの値。

(3) 収量性 (表3)

稈実英数は「ふくら」より多く、完全英率及び多粒英率とも高い。また、完全英収量は中生品種としては多い。

表3 エダマメ生産力及び稈実英の特性

品種・系統名	稈実英数 (個/株)	完全英率 (%)	多粒英率 (%)	完全英収量 (kg/a)
滝系 C8	107	74	40	12
ふくら(標)	79	63	36	78
中生茶豆(比)	178	62	8	56

注. 1) 1997~99年の平均値。ただし、「中生茶豆」は1999年のみの値。

2) 1英に2粒以上の充実した子実粒を有し、空のない英を完全英とした(市場出荷時のA品に相当)。

(4) エダマメ収穫適期の莢及び子実の特性 (表4, 表5)

莢色は緑で、毛茸色は淡褐(ダイズ品種特性分類審査基準の分類に従った場合は褐)、毛茸の量は中である。莢の大きさは長さ、幅とも中である。

食味品質では、甘み、香りとも「ふくら」より特に優れる。また、外観の色は劣るものの、外観の形は同等であることから、総合評価においても優れる。

表4 エダマメ収穫適期における莢の外観特性

品種・系統名	2粒莢		3粒莢	
	長さ	幅	長さ	幅
滝系 C8	48	13.5	60	13.7
ふくら(標)	56	13.5	63	12.8
中生茶豆(比)	47	13.9	57	13.8

注. 2粒莢は1997~99年, 3粒莢は1998~99年の平均である。ただし, 「中生茶豆」は2粒莢, 3粒莢とも1999年のみの値。

表5 官能評価

品種・系統名	外観 (形)	外観 (色)	甘み	香り	総合
滝系 C8	3.0	2.4	4.1	4.0	3.9
ふくら(標)	(3.0)	(3.0)	(3.0)	(3.0)	(3.0)

注. 1) 1999年に調査。
2) 「ふくら」を基準(3)とし, 良(5), やや良(4), 標準並(3), やや劣る(2), 劣る(1)の5段階で評価した。
3) パネラーは15人。

表6 大豆立枯性病害(ダイズ黒根腐病)特性検定結果

品種・系統名	発病株率(%)	発病度	ハロソ対比	判定
滝系 C8	100	3.15	0.862	弱
ナンプシロメ(比)	100	2.43	0.711	弱

注. 1) 1995年に調査。
2) 場所は旧岩手農試ダイズ連作圃場。

表7 ダイズモザイクウイルス接種反応試験結果

品種・系統名	Aレース		Bレース		Cレース		Dレース	
	罹病率	判定	罹病率	判定	罹病率	判定	罹病率	判定
滝系 C8	100	S	100	S	100	S	100	S
ネマシラズ(比)	30	R	50	R	100	S	100	S

注. 1) 1995年に調査。
2) 場所は東北農試大豆育種研究室(刈和野)。
3) 罹病率(%) = 病病株/接種株×100, 判定のSは感受性, Rは抵抗性。
4) Eレースについては判定できなかった。

(5) 病害抵抗性(表6, 表7)

ダイズ黒根腐病に弱く, SMV 抵抗性も有しない。

4 栽培上の留意点

生育が旺盛で蔓化倒伏しやすいので, マルチ栽培の場合は栽植密度を「ふくら」より低くし, 畦幅140cm(9230B マルチ使用), 若しくは畦幅160cm(9224B マルチ使用)とする。

また, 収穫適期を過ぎると外観品質や食味が低下するので, 適期収穫に努める。

5 ま と め

岩手県におけるエダマメの栽培面積及び生産量は, 1987年には1,090ha及び5,450tにまで達したが, 近年, だだ茶豆等の良食味のエダマメ品種が市場で多く流通されるようになるに従って岩手県産のエダマメの市場評価は下降している。このことから, 岩手県においてもこれまで求められてきた莢色が濃く, 毛茸色が白い, 外観品質の優れた品種に加えて, 甘みや香りの強い品種が求められるようになってきたが, これまでそれに対応した品種がほとんど見られなかった。今回育成した「滝系C8」は, 岩手県産エダマメの食味向上に大きく貢献できるものである。なお, 本種は甘みや香りが特に優れた良食味品種であることから, 8月中~下旬のみならず長期出荷による消費拡大が期待でき, 安定生産, 作期拡大技術の検討が今後の課題である。